

まとめ

国内の可視近赤外偏光観測の流れと現況

国内グループによる偏光装置の開発の流れ(佐藤)

1970- 京大赤外、堂平、岡山

最近使われている偏光分光装置(川端)

新しい装置・光学素子の開発(秋田谷、渡部、新崎、海老塚／橋本) 北大、LIPS改造、新しい分散素子、ナスミス焦点での偏光キャリブレーション

今後の行方(秋田谷、川端)
大口径望遠鏡、サーベイ

偏光観測によるサイエンス(青字はすばる)

偏光撮像系

原始惑星系円盤(橋本)、

銀河中心領域(西山)

AGN(笹田、伊藤)、GRB残光(高木)

偏光撮像系

※小惑星(高橋)、

ヘリウム新星(佐藤)、共生星(磯貝)、

Be星(平田)

超新星(田中)

※星間偏光・ダスト整列機構(松村)

銀河スーパーウィンド(吉田)

将来への課題

継続観測、多波長観測への要望

理論モデルとの比較の重要性

大型の望遠鏡の必要性、深いサーベイの提案

- 既存の望遠鏡・装置で研究を継続するテーマ
 - 施設・装置の維持(北大、名大、京産大、広大、すばる FOCAS, HiCIAO, IRCS)
 - 観測時間の確保、キャリブレーションの向上
- 次世代大型望遠鏡による観測が必要なテーマ
 - TMTで予定されている装置には偏光機能なし
 - TMTの観測装置はあまりに大型過ぎる(大学の位置研究室では手も足も出ない) **力を集約が必須**

- ウェブ集録を作りますのでご協力願います
- 東武東上線 小川町駅発(池袋方面)
 - 15:54(快速)
 - 16:27(準急) 44(急行) 58(急行)
 - 17:10(快速) 31(快速)
- 可能な方、後片付けの手伝いを願います。



大島さん、吉岡さん、岡崎さん、有難うございました